

ちょっと気になる八王子マガジン

は ちと ひ



2022年 涼風号

No.51

Take Free

〈ご自由にお持ちください〉



2020年にリニューアルオープンした東京フットボールセンター八王子富士森競技場

特集

富士森公園

市内最古の公園のこれまでとこれから

富士森公園で学ぶ戦争と平和

見どころたくさん

富士森公園に行ってみよう！

地図を片手に訪ねてみよう

富士森公園周辺の寺院巡り

元気印の市民団体紹介

コラム 八王子の民俗誌⑦

八王子自然探訪③

私の本はこうして生まれた 其の五十一

コールヒル

古い甲州街道が結ぶ富士信仰

富士森公園周辺を歩く

『社会教育推進委員会五十年のあゆみ』

佐藤 広

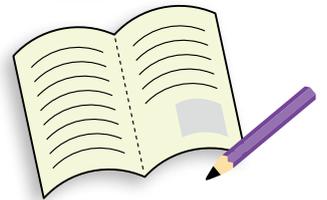
粕谷 和夫

浅川地区社会教育推進委員会 編

市内中心部にある富士森公園は、多摩地域で初めて造成された本格的な公園として100年以上前に開設されました。長い歴史のなかで、一時期は戦争の影響を受けたこともありましたが、現在は市民の憩いの場として平和の家徴の1つにもなっています。公園内の浅間神社やグラウンドなどの施設のエピソードを織り交ぜながら、知られざる公園のヒミツをご紹介します。

市内最古の公園のこれまでとこれから

富士森公園で学ぶ 戦争と平和



富士森の由来

富士森公園の高台にある浅間神社は、江戸時代初め、関



▲明治40年代の富士森公園の招魂場
(八王子市郷土資料館蔵)

東総代官であった大久保長安が高さ約6mの塚を築き、山上に駿河国(現静岡県)の本宮浅間神社を分社して勧請したのが起源と伝えられます。

この塚は美しい富士山を望めることから「富士塚」と呼ばれるようになり、これが「富士森」命名の起源となったといわれています。ほかに「富士森」の由来は諸説あり、南北朝時代にこの地に落ちのびた南朝方の公家の女性「お富士の方」が塚を築いたので「富士塚」と呼ばれたという言い伝えもあります。ともあれ、公園一帯は古くから

樹木が生い茂る浅間神社の鎮守の森でした。

慰霊の場として

富士森公園がいわゆる公園として整備されたのは1896(明治29)年。市内で初めてのことでした。同年には南多摩郡有志によって、報國忠魂之碑(現存せず)、西南戦争・日清戦争戦没軍人・兵士の碑、日清戦争従軍軍夫の碑の3基が建立されました。開園から10年を経た明治40年代の様子について、1911年に刊行された『八王子案

内』には、「各戦役に戦没したる軍人軍属の氏名を刻せる石碑三個。其地境内に茶店、常夜燈、及び吾妻家あり」という記述があり、園内の特徴の1つに慰霊碑があったことが窺えます。

1906年には日露戦争戦死者の忠魂碑が建立され、その除幕式、弔魂祭には約1万人が参列したといわれます。慰霊碑の近くには日清・日露戦争に参戦した軍艦「松島」の大砲が据えられ、子どもたちの格好の遊び場になっていました。

このように開園当初の園内は、忠魂碑を中心に戦死者を慰霊する場として整備され、「招魂場」の役割を担うようになります。当時、毎年4月15日に「招魂祭」が行われ、南多摩郡全域から在郷軍人、青年団などが集い、グラウンドでの武道競技と、射撃場での実弾射撃が行われていました。また、三多摩青年会の発会式、戦勝祝賀会、明治神宮鎮座の遙拝式、戦死者の市民葬、農家の家族慰安会なども開催されました。



▲今も残る大正殿の石柱

戦争の影響

大正天皇が亡くなった際、多摩御陵の葬儀で使用した祭場殿が、1927(昭和2)年に、「大正殿」として神社境内に移築されました。これは後に払い下げられ、1953年より現在の「拝殿」として使用されています。

翌年には露商組合によって園内に1万本の躑躅が植えられ、藤棚も作られます。1926(大正15)年、園内に市内初の本格的なスポーツ会場としてグラウンドが開設されました。当時、このグラウンドを使用し、盛大に実施されていたのが、府立第二商業学校の秋の運動会です。八王子名物の1つとして、多くの市民がスタンドを埋め尽

くすほど賑わっていました。こうしたイベントも、空砲の硝煙が漂う中での上級生による撤兵戦や、フィナーレの軍事演習など、徐々に戦時色が強まっていくようになりました。

1940年には大正殿の前で「紀元2600年記念式典」が挙行されます。ほかに戦没将士慰霊祭、武運長久祈願など、国民精神総動員運動の実践行事の場として使用されるようになり、官公庁や

企業の青年学校の軍事教練兵場にもなりました。戦争が激化するにつれ、慰霊の場にとどまらず、戦争の訓練の場としても使用されるようになっていったのです。

このように日本の近代戦争の歴史とともに歩んできた園内には、いまでも戦争の面影が残っています。先述した慰霊碑は現在もひっそりと佇み、現在の市域となった翌年の1965年には巨大な「八王子市慰霊塔」が建てられました。

イベント会場として

1946年、八王子空襲で罹災した八王子市立高等女学校がグラウンドの北側に移転してきました。後にこの地名をとって富士森高等学校と名称が変更され、昭和30年代に現在の長房町に移転するまで園内で開校していました。

1947年にはグラウンドが再整備され、第1回市民体育祭の会場の1つとして使用されました。さらに1950年にテニスコート、1956年に新たな市民球場、1963年に市民プールが開設。1974年には都下最大規模の市民体育館がオープンするなど、多摩地域屈指のスポーツ公園ともなりました。

体育施設に限らず、戦後になって富士森公園は市民の憩いの場としての性格を強めていきます。1951年には都の移動動物園として、象の「ハナ子」が来園

し、訪れる人を楽しませました。1961年には現在の八王子祭りの前身、第1回八王子市民祭が開催され、野球場でフォークダンスや民謡、舞踊、吹奏楽、花火といった多彩なプログラムが展開されるなどして、3万人を超える人びとが集まりました。

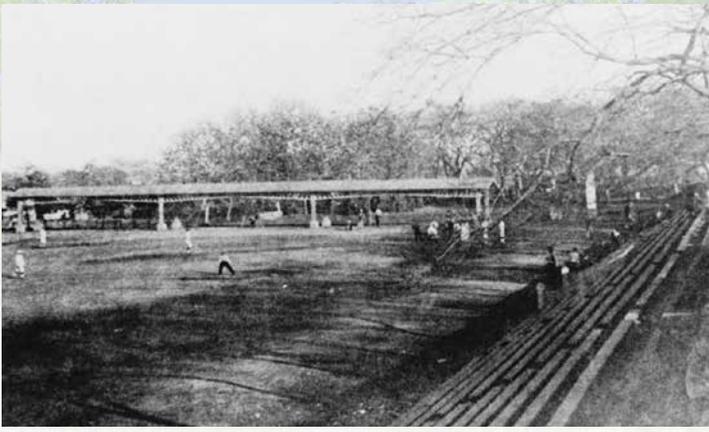
ほかにもメーデーや花火大会、さまざまなスポーツイベントの会場として利用されてきたほか、2017（平成29）年の「全国都市緑化はちおうじフェア」の際はメイン会場として、公園全体がリニューアルされました。最近では2021（令和3）年に東京オリンピックの聖火リレー点火セレモニーが開催されるなど、市内のイベント会場の中心地となっています。

平和の象徴として

1年のうちで、富士森公園に最もたくさんの方が集まるのは、桜が咲き誇るお花見のシーズンです。富士森公園は桜の名所としても古くから知られています。かつては公園の東側を南北に通ずる都道に、数百メートルにわたって見事な桜のトンネルが続いていました。花見の時期には、この通りの桜木に提灯がともり、長く夜店が並んでいたこともありました。

戦争に関連したイベントが多く行われていた公園も、現在は多くのスポーツ施設を備え、子どもたちの遊び声が響く市民の憩いの場として定着しています。1993年に園の中央部に建立された「平和の像」は、市の平和の象徴としての役割も担っているといえるでしょう。

八王子の発展とともに歩んできた富士森公園は、いまでも戦争と平和の両面を感じることでできる市内有数の場所でもあります。



▲こども広場にある市制100周年のロゴをモチーフにした時計

見どころたくさん



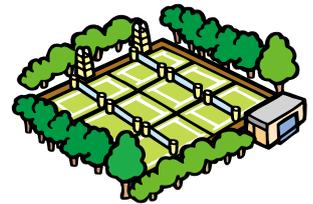
富士森公園に 行ってみよう



市内の中心部に10万㎡もの広さを擁する富士森公園には、スポーツ施設や遊び場、歴史を刻む石碑や芸術的な彫刻など、数多くの見どころがあります。ここでは知っているようで意外と知らない、富士森公園の見どころをご紹介します。

アクセス

- * JR 八王子駅南口から「東京家政学院」「法政大学」行きバスなどで約10分 「富士森公園」バス停下車
- * JR 西八王子駅南口から徒歩約20分



石坂昌孝は明治時代の自由民権家。多摩郡野津田村に生まれ、戸長、区長を歴任し、神奈川県会議員、議長に選ばれる。自由党に参加し、衆議院議員を経て、群馬県知事に就任した。娘の美那は北村透谷の妻。



◎石坂昌孝の碑

1926（大正15）年開設。市制100周年イベントのメイン会場として整備され、2020（令和2）年リニューアルオープン。3000人の観客を収容できる。基本的に有料だが、水曜日と毎日朝晩は無料で市民に開放されている。

▲陸上競技場



祭神は木花咲耶姫命（このはなのさくやひめのみこと）。2019（令和元）年に本殿の新築工事が竣工した。神社の例祭は8月1日。前夜の7月31日にはだんご祭りが行われ、境内の周りに露店が並ぶ。

◎浅間神社



八王子市の非核平和都市宣言10周年にあたり、恒久平和を願う市民の平和の象徴として1993（平成5）年に建立。像の左右には「八王子市非核平和都市宣言」と「世界連邦平和都市宣言」を記した碑が立っている。

◎平和の像



戦前には職業野球団（現プロ野球）が指導試合に訪れたこともあった。ナイター施設や放送設備を有し、硬式野球のできる野球場として、高校野球の予選も行われている。両翼98m、センター112m。入場定員11289人。

◎野球場



西南戦争・日清戦争の戦没軍人・兵士の碑、日清戦争従軍軍夫の碑、日露戦争忠死者の碑、北清事変・第一次世界大戦・満州事変等戦死者の碑の4基が建つ。ひととき大きな日露戦争忠死者の碑には「忠烈無窮」と刻まれている。

◎慰霊碑群



園内マップ

- A 東京フットボールセンター八王子富士森競技場（陸上競技場）
- B 平和の像
- C 慰霊碑群
- D 石坂昌孝の碑

- E 浅間神社
- F スリーポンドスタジアム八王子（野球場）
- G 八王子市慰霊塔
- H 富士森体育館

こども広場

富士森公園通り

至JR 西八王子駅

クーパーフットボールパーク

こども広場

テニスコート

駐車場

至JR 八王子駅

富士森公園

だんだん広場

躑躅栽植の碑

大正殿石柱

教育者、奥津雁江の碑

市民体育館

至京王線 山田駅

八王子海軍わだつみ会記念樹の碑

だんだん広場

テニスコート

1974（昭和49）年オープン。当時は市民体育館として都下最大規模のものであった。各施設の貸切利用や個人で利用できる各種競技の一般開放、エアロビクスなどのプログラムを実施。2016（平成28）年にリニューアルされた。

● H 富士森体育館



1965（昭和40）年、現在の八王子市域が成立したことを受けて、旧市町村すべての戦死者、戦災死者を統合して慰霊するため八王子市が建立。高さ約20m。西南戦争から太平洋戦争までの3248名の氏名を納めている。

● G 八王子市慰霊塔



富士森公園は園内だけでなく、周辺にも見どころがたくさんありますが、ここでは周囲に点在する歴史的な寺院を紹介します。市内でも有数の古刹、著名人の墓地など、歴史を感じることでできるスポットが目白押し。地図を広げて、気になるお寺に足を延ばしてみませんか？

地図を片手に訪ねてみよう

富士森公園周辺の寺院巡り

① 観音寺

もともとは薬師堂の別当寺として犬目に創建された寺院で、後に現在地へ移転しました。山門は千人同心組頭中村左京の屋敷門を移築したもの。蘭方医秋山家の墓があり、墓石には「A」の文字が刻まれています。



山門前には秋山義方父子の碑があります。秋山義方は眼科医であり、高野

長英とも親交がありました。息子の秋

山佐蔵も内科医・眼科医として活躍

し、1858（安政5）年に、わが国

で初めて金属活版印刷による西洋医学

書の翻訳刊行を行いました。（はちと

び36号参照）

② 本立寺

1566（永祿9）年に滝山に創建されたと伝えられています。千人頭、

原胤従（なほつぐ）が中興開基となり、1596

（慶長元）年に現地に移されました。

墓域にある、1827（文政10）年

に亡くなった原胤敦（なほあつ）の墓は、都の指定

旧跡となっています。原胤敦は174



8（寛延元）年に千人頭の家誕生。

1776（安永5）年に家督を継ぎ、

1800（寛政12）年に千人同心の子

弟100人を率いて蝦夷地（北海道）

の開拓に着手しました。1814（文

化11）年には幕府の命により、『新編

武蔵国風土記稿』の編纂にも従事しま

した。（はちとび50号参照）

ほかにも墓域内には、八王子生まれ

の江戸文化・風俗研究家、三田村鳶魚

の墓もあります。

1945（昭和20）年の八王子空襲

によってすべての伽藍が焼失してしま

いましたが、戦後に徐々に復興を遂げ

ています。



③ 法蓮寺

1573（天正元）年に創建。境内

には千人同心組頭、並木以寧（いね）の墓があ

ります。並木以寧は医術を身につけ、

元八王子に「養老畑」を設置し、庶民

の救済費に充てました。貧しい人びと

に対しても献身的に治療を施し、多く

の庶民に慕われたといわれています。

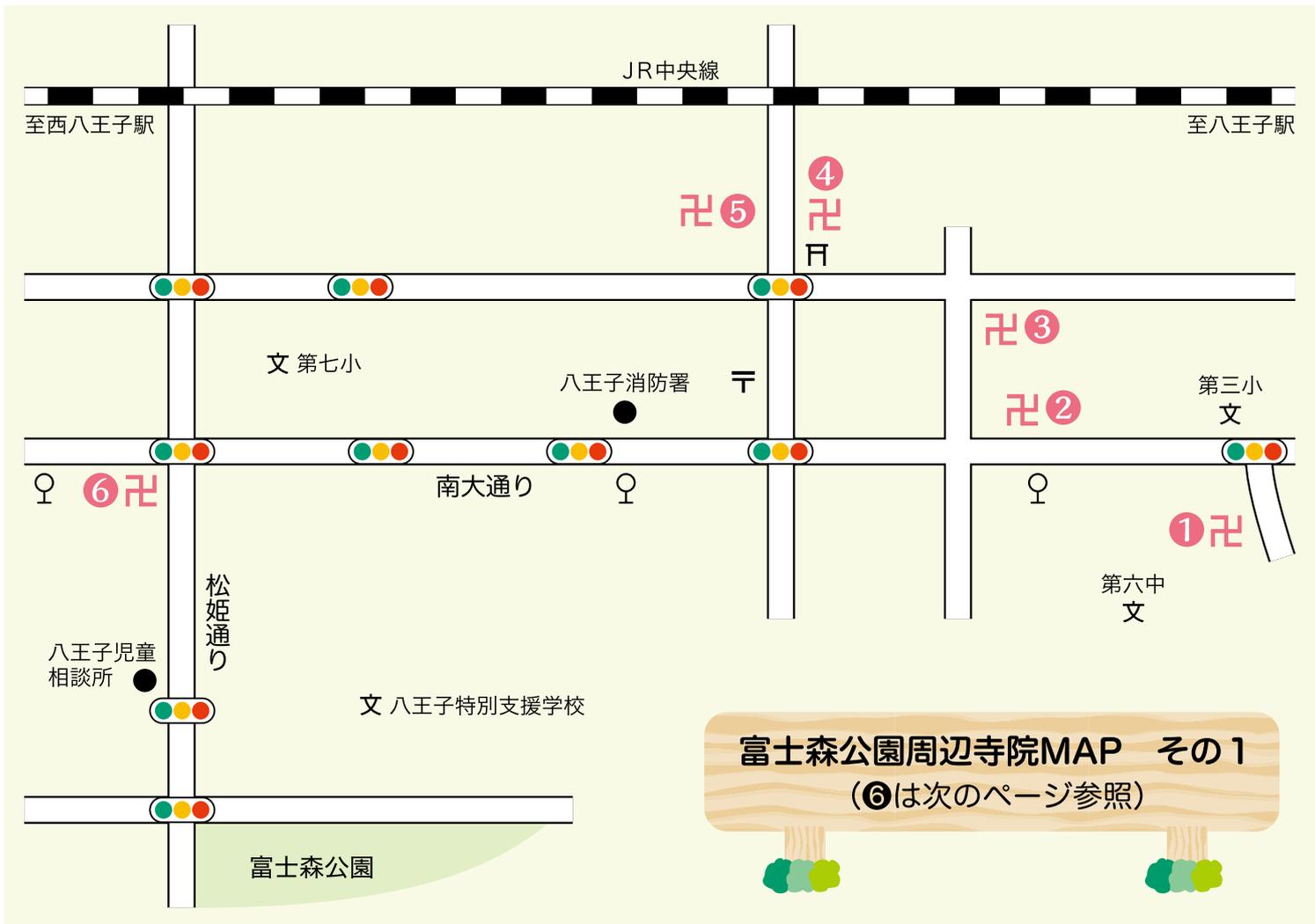
書道の私塾を開き、弟子も多く、墓に

は「筆門五百余人造立之」と刻まれて

います。

本堂の脇には、八王子空襲で焼けた

カキの木の幹が置かれています。



鐘銘には「武州多西郡八王子町時之鐘」と八王子町の名が刻まれています。当時は1日12回、2時間おきに打ち鳴らされていました。市民に親しまれ、戦時期の供出は免れましたが、空襲で焼失。1952（昭和27）年に再建されています。

④ 念仏院

市指定文化財の「時の鐘」があります。銅製で高さ148cm、口径79cm。1699（元禄12）年、町の人びとへ時を知らせるために、八日市宿名主新野与五右衛門を大旦那として、八王子十五宿、千人同心、近郷村々の協力によつて造られました。



戦後70年を迎えた2015（平成27）年には、檀家の戦死者を調査し、「第二次世界大戦戦没者慰霊供養塔」を建立しました。

⑤ 金剛院

弘法大師空海の法灯を継ぐ、高野山真言宗の寺院。1576（天正4）年に開かれ、当初は「明王院」という寺名でした。1631（寛永8）年に現在地に移転し、金剛院として新たな伽藍を開設。戦後の一時期、境内に図書館が設置されていたこともあります。

6 信松院



武田信玄の娘、松姫が開基。武田信玄滅亡後に八王子へ逃れ、この地で没した松姫は、元武田家の家臣である千人同心や大久保長安の心のよりどころとなっていました。

市指定文化財の木造松姫坐像は、松姫百回忌にあたる1715（正徳5）年ころの作。寄木造りの玉眼で、彩色されており、剃髪して法衣に袈裟をつけた尼僧の姿をしています。

同じく百回忌には、松姫の兄である仁科盛信の孫、仁科資真すけまねによって、木製軍船ひな形と目録が寄進されました。信玄ゆかりの2つの木製軍船のひな型は都指定文化財で、小早川隆景の軍が使用した、わが国最古の軍船の模と伝えられています。

御所水

富士森公園の辺りは、江戸時代には「御所水村」と呼ばれていました。御所水の由来は、高台から清らかな湧水が出たことから「高所水」と呼ばれ、それが転じて名付けられたといわれます。江戸時代、大久保長安が小門町に陣屋を置いていたときには、ここから水を引いていました。いまはもう水は枯れてしまっていますが、富士森公園の近くには現在も弁天様が祀られています。



▶御所水弁財天の碑

墓域にある松姫の墓

（市指定史跡）は、没後132年目にあたる1748（延享5）年に千人頭・千人同心たちが玉垣を寄進して、現在のような姿になりました。

春には桜が咲き、7月にはほおずき市が行われるなど、季節の移り変わりを感ずることのできる寺院です。（はちとぴ27号参照）



7 直入院



もとは小門町にありましたが、戦後、墓地と一緒に現在地に移転。その際に本堂と庫裡が復興されました。

境内には市指定文化財の石造五智如来立像があります。五智如来は、はじめ小門町の蓮生院の門前に建てられていましたが、1945（昭和20）年の戦災により蓮生院が焼失、廃寺となったため、1954年に元横山町の帰西寺に移されました。しかし1957年に、区画整理による移転を機に帰西寺が直入院と合併したため、現在地に再移転。かつては縁日にとりもろこしを売る露店が並んだことから、「とうもろこし地蔵」と親しまれていました。（はちとぴ50号参照）

8 廣園寺

市内有数の禅宗の名刹として知られています。1389（康応元）年に、甲斐国向嶽寺（現山梨県甲州市）の峻翁令山和尚を開山として創建。本尊は弥勒菩薩で、近隣地域の人びとから「山田の本坊」の名で知られています。

堂宇は1590（天正18）年の八王子城落城時の兵火によって焼失。江戸時代初期には幕府の庇護のもと、京都南禅寺派の禅宗寺院として発展し、七堂伽藍が整備されます。1697（元禄10）年、1792（寛政4）年の火災で荒廃しましたが、文化・天保年間（1804〜44）に再興されました。

江戸時代には境内1万坪、寺領53万坪、塔頭四十余カ寺と末寺百カ寺を擁していたといわれます。

総門、山門、仏殿が南北一直線に並び、その奥に石垣をもつて一段高く本堂、庫裏、開山堂が東西に配置されるという代表的な禅宗寺院様式を保っています。庭園も含めて、境内一帯は東京都の史跡に指定されていて、毎年4月6日には開山忌が行われ、市民坐禅会を毎月開催しています。

総門、山門、仏殿、鐘楼の他、木造法光円融禅師坐像は都指定文化財となっています。

廣園寺境内の文化財



緑町霊園

1922（大正11）年に、八王子市営最古の共同墓地として使用が開始されました。墓域には萬福寺や直入院、福伝寺などの墓地が入り組んであります。もともと由井村の萬福寺所有地を買収したのですが、その後拡張して1952（昭和27）年に現在の墓域となりました。墓域内には渋谷定七や肥沼信次の墓があります。

また、八王子空襲での死者のうち、引き取り手のなかった戦災死没者50体の遺体を埋葬した「戦災死没者の墓」があります。毎年、八王子市社会福祉協議会とシニアクラブ連合会が法要を行っています。



▲戦災死没者の墓